

平成 24 年度学習指導要領実施状況調査 教科等別分析と改善点 (小学校 生活 (質問紙調査))

1. 今回の調査結果の特色

(1) 質問紙調査結果の概要

① 「教師の指導の状況等」に関する調査結果の概要

- 肯定的な回答の割合が 90%以上の質問項目は、質問(1)「身近な人々、社会及び自然と直接かかわる授業を行っていますか。」、質問(2)「具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えさせるため、見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動を行っていますか。」、質問(3)「自分自身や自分の生活について考えさせることを大切にする授業を行っていますか。」、質問(4)「気付いたことや楽しかったことなどを表現する活動を大切にする授業を行っていますか。」、質問(5)「他教科等との関連を図った授業を行っていますか。」、質問(6)「動物や植物への関わりが深まるよう継続的な飼育・栽培活動を行っていますか。」、質問(8)「個別学習やグループ学習などの学習形態を工夫した授業を行っていますか。」、質問(9)「保護者、地域にいる人々などの協力を得た授業を行っていますか。」である。肯定的な回答の割合のうち「行っている」が 60%以上の質問項目は、質問(1)、質問(4)、質問(8)、質問(9)である。
- 質問(3)は「行っている」と回答した割合が「音楽等質問紙調査(平成 16 年度)」と比べると 26.0%から 54.6%になり 28.6 ポイント増加している。また、質問(5)では 18.6%から 46.7%になり 28.1 ポイント、質問(9)では 24.5%から 61.2%になり 36.7 ポイント増加している。
- 質問(10)「幼児教育との連携・接続を考慮したスタートカリキュラムを工夫して授業を行っていますか。」の肯定的な回答の割合は 38.8%、質問(11)「スタートカリキュラム作成にあたって、幼稚園や保育所と連携協力しながらカリキュラムの作成を行っていますか。」の肯定的な回答の割合は 30.2%であり、否定的な回答の割合は共に 60%を超えている。今回の学習指導要領の改訂において重視された事項であるが、今後組織的な取組が一層求められる。

② 「各内容に対する教師の意識」に関する調査結果の概要

ア 児童の興味・関心のもちやすさ

- 「児童が興味・関心をもちやすい」という回答の割合が 80%以上の内容は、内容(1)「学校と生活」、内容(5)「季節の変化と生活」、内容(6)「自然やものを使った遊び」、内容(7)「動植物の飼育・栽培」、内容(9)「自分の成長」である。
- 回答の割合が 70%未満の内容は、内容(8)「生活や出来事の交流」である。
- 「児童が興味・関心をもちやすい」という回答の割合は、「音楽等質問紙調査(平成 16 年度)」と比較すると、内容(2)「家庭と生活」は 12.0 ポイント、内容(3)「地域と生活」は 15.5 ポイント減少している。

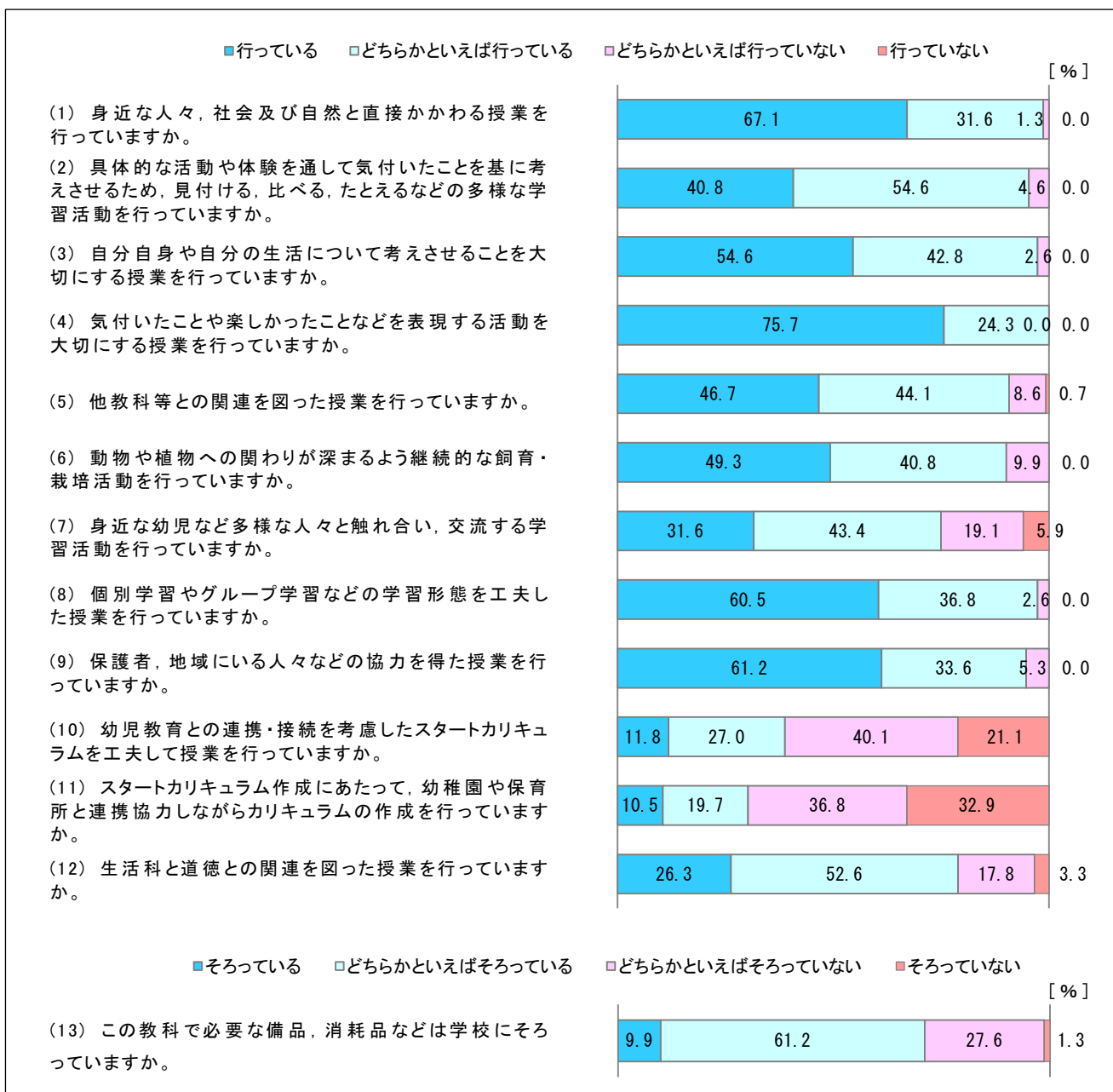
イ 児童の身に付けやすさ

- 「児童が身に付けやすい」という回答の割合が 80%以上の内容は、内容(1)「学校と生活」、内容(5)「季節の変化や生活」、内容(6)「自然やものを使った遊び」、内容(9)「自分の成長」である。
- 回答の割合が 70%未満の内容は、内容(2)「家庭と生活」、内容(3)「地域と生活」、内容(8)「生活や出来事の交流」である。
- 「児童が身に付けやすい」という回答の割合は、「音楽等質問紙調査(平成 16 年度)」と比較すると、内容(3)「地域と生活」は 21.0 ポイント、内容(7)「動植物の飼育・栽培」は 15.0 ポイント減少している。

(2) 質問紙調査の結果の概要

① 学校質問紙調査

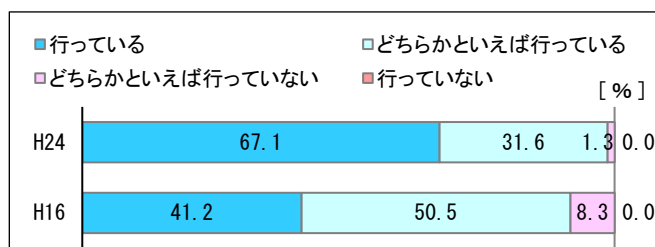
ア 教師の指導の状況等



※以下の分析においては、「音楽等質問紙調査（平成16年度）」と同様の質問(1)，(3)，(4)，(5)，(8)，(9)について、経年比較を行っている。

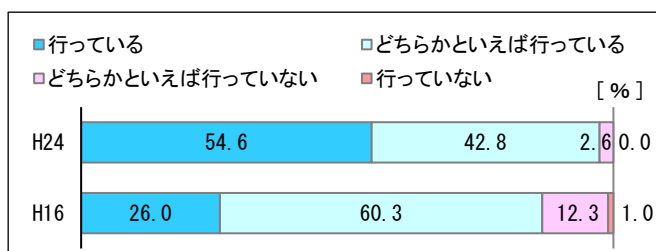
※分析対象人数について、今回の調査は152人、「音楽等質問紙調査（平成16年度）」は204人である。

○ 質問(1)「身近な人々、社会及び自然と直接かかわる授業を行っていますか。」について、肯定的な回答の割合は98.7%である。そのうち「行っている」は67.1%、「どちらかといえば行っている」は31.6%である。「音楽等質問紙調査（平成16年度）」と比較して、肯定的な回答の割合は7.0ポイント増加し、中でも「行っている」は25.9ポイント増加している。

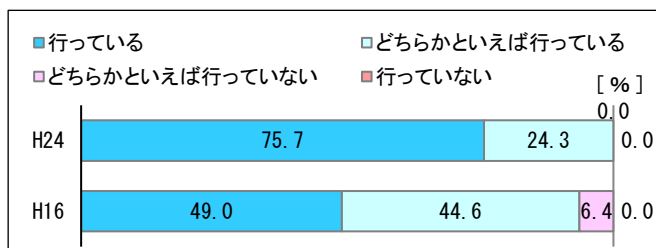


- 質問(2)「具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えさせるため、見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動を行っていますか。」について、肯定的な回答の割合は 95.4%である。そのうち「行っている」は 40.8%、「どちらかといえば行っている」は 54.6%である。

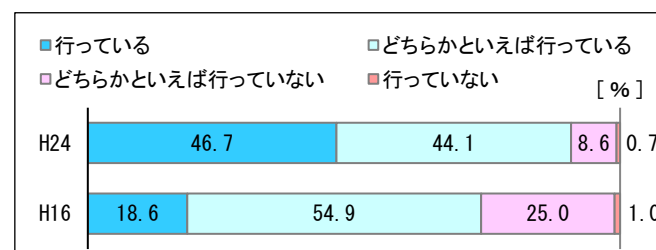
- 質問(3)「自分自身や自分の生活について考えさせることを大切にする授業を行っていますか。」について、肯定的な回答の割合は 97.4%である。そのうち「行っている」は 54.6%、「どちらかといえば行っている」は 42.8%である。「音楽等質問紙調査(平成 16 年度)」と比較して、肯定的な回答の割合は 11.1ポイント増加し、中でも「行っている」は 28.6ポイント増加している。



- 質問(4)「気付いたことや楽しかったことなどを表現する活動を大切にする授業を行っていますか。」について、肯定的な回答の割合は 100%である。そのうち「行っている」は 75.7%、「どちらかといえば行っている」は 24.3%である。「音楽等質問紙調査(平成 16 年度)」と比較して、肯定的な回答の割合は 6.4ポイント増加し、中でも「行っている」は 26.7ポイント増加している。



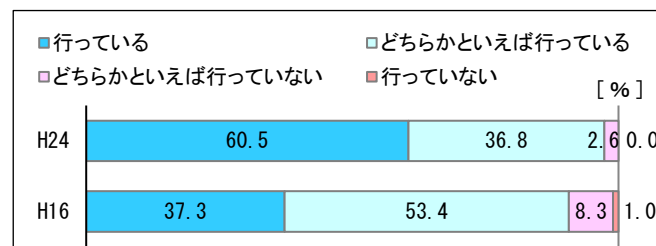
- 質問(5)「他教科等との関連を図った授業を行っていますか。」について、肯定的な回答の割合は 90.8%である。そのうち「行っている」は 46.7%、「どちらかといえば行っている」は 44.1%である。「音楽等質問紙調査(平成 16 年度)」と比較して、肯定的な回答の割合は 17.3ポイント増加し、中でも「行っている」は 28.1ポイント増加している。



- 質問(6)「動物や植物への関わりが深まるよう継続的な飼育・栽培活動を行っていますか。」について、肯定的な回答の割合は 90.1%である。そのうち「行っている」は 49.3%、「どちらかといえば行っている」は 40.8%である。

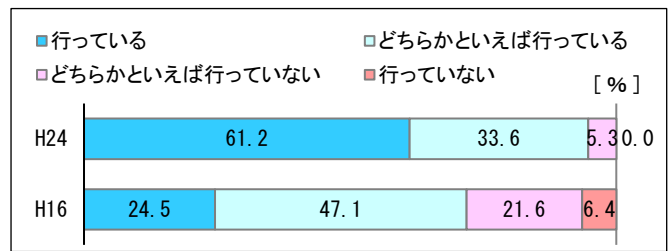
- 質問(7)「身近な幼児など多様な人々と触れ合い、交流する学習活動を行っていますか。」について、肯定的な回答の割合は 75.0%である。そのうち「行っている」は 31.6%、「どちらかといえば行っている」は 43.4%である。

- 質問(8)「個別学習やグループ学習などの学習形態を工夫した授業を行っていますか。」について、肯定的な回答の割合は 97.3%である。そのうち「行っている」は 60.5%、「どちらかといえば行っている」は 36.8%である。「音楽



等質問紙調査（平成 16 年度）」と比較して、肯定的な回答の割合は 6.6 ポイント増加し、中でも「行っている」は 23.2 ポイント増加している。

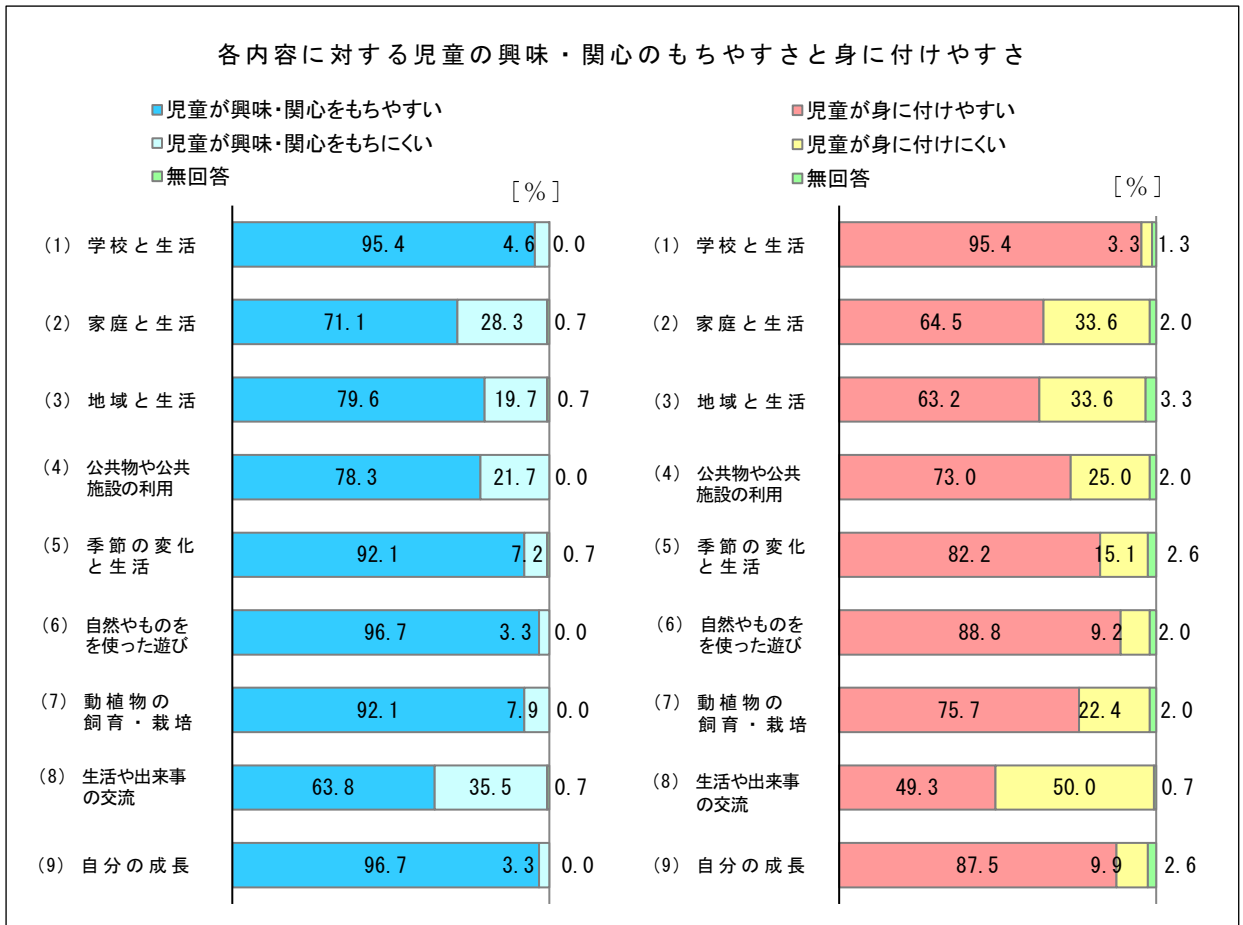
- 質問(9)「保護者、地域にいる人々などの協力を得た授業を行っていますか。」について、肯定的な回答の割合は 94.8%である。そのうち「行っている」は 61.2%、「どちらかといえば行っている」は 33.6%である。「音楽等質問紙調査（平成 16 年度）」と比較して、肯定的な回答の割合は 23.2 ポイント増加し、中でも「行っている」は 36.7 ポイント増加している。



- 質問(10)「幼児教育との連携・接続を考慮したスタートカリキュラムを工夫して授業を行っていますか。」について、肯定的な回答の割合は 38.8%である。そのうち「行っている」は 11.8%、「どちらかといえば行っている」は 27.0%である。一方、否定的な回答の割合は 61.2%である。
- 質問(11)「スタートカリキュラム作成にあたって、幼稚園や保育所と連携協力しながらカリキュラムの作成を行っていますか。」について、肯定的な回答の割合は 30.2%である。そのうち「行っている」は 10.5%、「どちらかといえば行っている」は 19.7%である。一方、否定的な回答の割合は 69.7%である。
- 質問(12)「生活科と道徳との関連を図った授業を行っていますか。」について、肯定的な回答の割合は 78.9%である。そのうち「行っている」は 26.3%、「どちらかといえば行っている」は 52.6%である。
- 質問(13)「この教科で必要な備品、消耗品などは学校にそろっていますか。」について、「そろっている」は 9.9%、「どちらかといえばそろっている」は 61.2%である。

イ 各内容に対する教師の意識

(ア) 学習指導要領の各内容に関する質問の分析

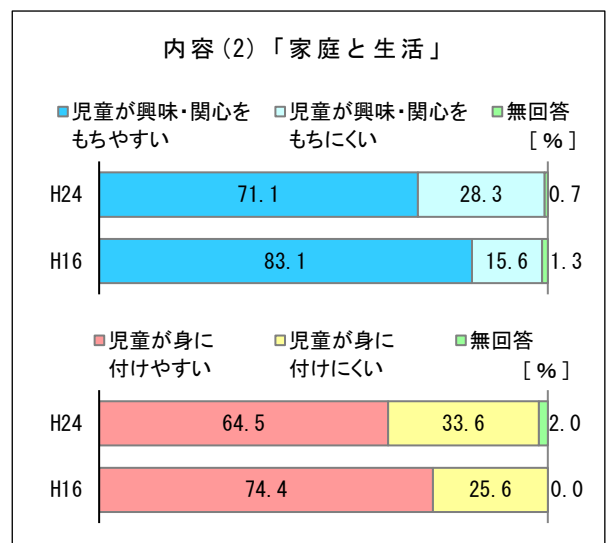


※以下の分析においては、内容(2)、(3)、(7)について、「音楽等質問紙調査(平成16年度)」との経年比較を行っている。「音楽等質問紙調査(平成16年度)」では「児童が関心を持ちやすい」、「児童が学習内容を実現している」の質問項目で各内容について調査している。

※分析対象人数について、今回の調査は152人であり、「音楽等質問紙調査(平成16年度)」は調査人数204人のうち調査時点までに該当内容を指導していた人数である。

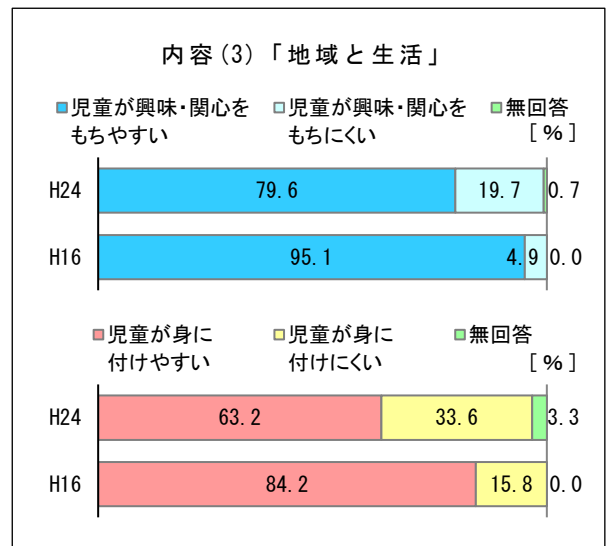
- 内容(1)「学校での自分の生活を考えるとともに、楽しく安心して遊びや生活をする事」(以下、「学校と生活」という。)について、「児童が興味・関心を持ちやすい」という回答の割合は95.4%、「児童が身に付けやすい」という回答の割合は95.4%である。

- 内容(2)「家庭で自分の生活を考えるとともに、健康に気を付けること」(以下、「家庭と生活」という。)について、「児童が興味・関心を持ちやすい」という回答の割合は71.1%、「児童が身に付けやすい」という回答の割合は64.5%である。「音楽等質問紙調査(平成16年度)」では、「児童が関心を持ちやすい」という回答の割合は83.1%、「児童が学習内容を実現している」という回答の割合は74.4%であり、減少傾向が見られる。



※「音楽等質問紙調査(平成16年度)」の分析対象人数は160人である。

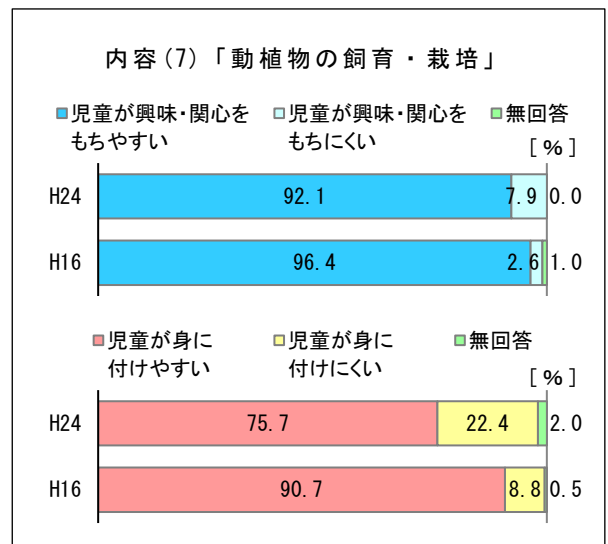
- 内容(3)「地域での自分の生活を考えるとともに、地域の人や場所に親しみをもち、適切に接すること」(以下、「地域と生活」という。)について、「児童が興味・関心をもちやすい」という回答の割合は79.6%、「児童が身に付けやすい」という回答の割合は63.2%である。「音楽等質問紙調査(平成16年度)」では、「児童が関心をもちやすい」という回答の割合は95.1%、「児童が学習内容を実現している」という回答の割合は84.2%であり、減少傾向が見られる。



※「音楽等質問紙調査(平成16年度)」の分析対象人数は184人である。

- 内容(4)「公共物や公共施設を大切に正しく利用すること」(以下、「公共物や公共施設の利用」という。)について、「児童が興味・関心をもちやすい」という回答の割合は78.3%、「児童が身に付けやすい」という回答の割合は73.0%である。
- 内容(5)「季節の変化や季節によって生活の様子が変わること」(以下、「季節の変化と生活」という。)について、「児童が興味・関心をもちやすい」という回答の割合は92.1%、「児童が身に付けやすい」という回答の割合は82.2%である。
- 内容(6)「身の回りの自然やものを利用し、遊びを工夫して楽しむこと」(以下、「自然やものを使った遊び」という。)について、「児童が興味・関心をもちやすい」という回答の割合は96.7%、「児童が身に付けやすい」という回答の割合は88.8%である。

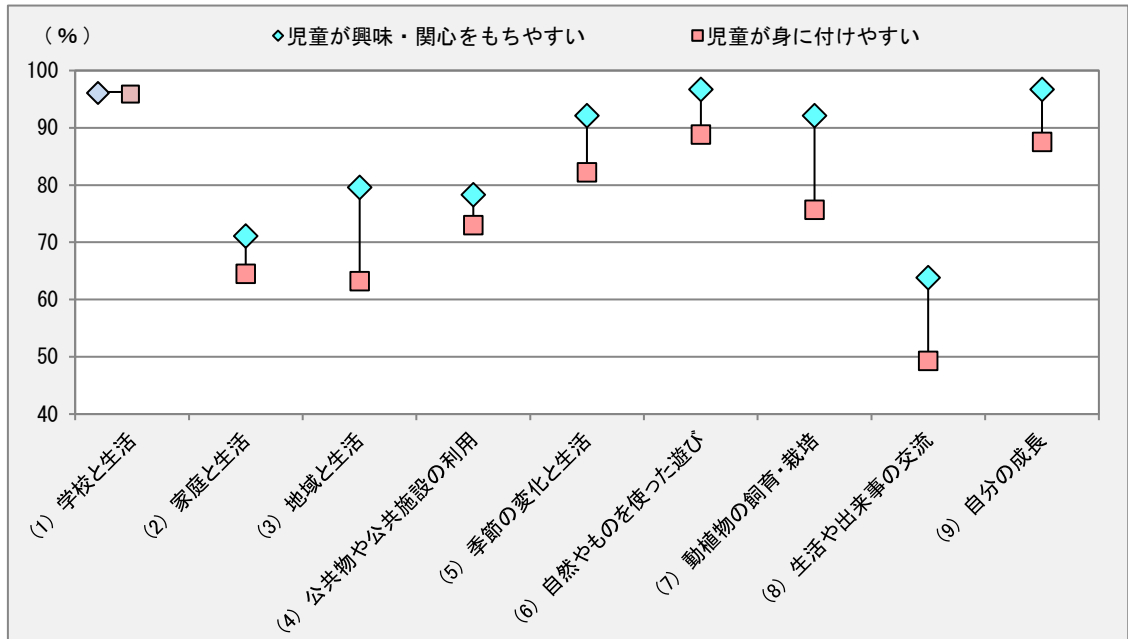
- 内容(7)「動物を飼ったり植物を育てたりして、生き物への親しみをもち、大切にすること」(以下、「動植物の飼育・栽培」という。)について、「児童が興味・関心をもちやすい」という回答の割合は92.1%、「児童が身に付けやすい」という回答の割合は75.7%である。「音楽等質問紙調査(平成16年度)」では、「児童が関心をもちやすい」という回答の割合は96.4%、「児童が学習内容を実現している」という回答の割合は90.7%であり、減少傾向が見られる。



※「音楽等質問紙調査(平成16年度)」の分析対象人数は194人である。

- 内容(8)「自分の生活や地域の出来事を伝え合い、進んで交流すること」(以下、「生活や出来事の交流」という。)について、「児童が興味・関心をもちやすい」という回答の割合は63.8%、「児童が身に付けやすい」という回答の割合は49.3%である。
- 内容(9)「自分の成長が分かり、これからの成長への願いを持ち意欲的に生活すること」(以下、「自分の成長」という。)について、「児童が興味・関心をもちやすい」と回答した割合は96.7%、「児童が身に付けやすい」と回答した割合は87.5%である。

(イ) 学習指導要領の内容における興味・関心のもちやすさと身に付けやすさの分析



- 「児童が興味・関心をもちやすい」という回答の割合が 80% 以上の内容は、内容(1)「学校と生活」(95.4%)、内容(5)「季節の変化と生活」(92.1%)、内容(6)「自然やものを使った遊び」(96.7%)、内容(7)「動植物の飼育・栽培」(92.1%)、内容(9)「自分の成長」(96.7%) の五つである。
- 「児童が興味・関心をもちやすい」という回答の割合が 70% 未満の内容は、内容(8)「生活や出来事の交流」(63.8%) である。
- 「児童が身に付けやすい」という回答の割合が 80% 以上の内容は、内容(1)「学校と生活」(95.4%)、内容(5)「季節の変化と生活」(82.2%)、内容(6)「自然やものを使った遊び」(88.8%)、内容(9)「自分の成長」(87.5%) の四つである。
- 「児童が身に付けやすい」という回答の割合が 70% 未満の内容は、内容(2)「家庭と生活」(64.5%)、内容(3)「地域と生活」(63.2%)、内容(8)「生活や出来事の交流」(49.3%) の三つである。
- 内容(2)から(9)において、「児童が興味・関心をもちやすい」という回答の割合より、「児童が身に付けやすい」という回答の割合の方が低い。
- 「児童が興味・関心をもちやすい」という回答の割合が 80% 以上であった五つの内容のうち、内容(1)、(5)、(6)、(9)の四つは「児童が身に付けやすい」という回答の割合も 80% 以上であり、その各内容において「児童が興味・関心をもちやすい」と「児童が身に付けやすい」の回答の割合の差は 10 ポイント以内である。
- 「児童が興味・関心をもちやすい」と「児童が身に付けやすい」の二つの回答の割合に関し、10 ポイント以上の差があるものは、内容(3)「地域と生活」(16.4 ポイント)、内容(7)「動植物の飼育・栽培」(16.4 ポイント)、内容(8)「生活や出来事の交流」(14.5 ポイント) の三つである。
- 内容(8)「生活や出来事の交流」は、「児童が興味・関心をもちやすい」という回答の割合は 70% を、「児童が身に付けやすい」という回答の割合は 50% を下回る。

2. 今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点

(1) 教師の指導の状況等

① 生活科の本質を実現するための指導の一層の充実

- 質問(1)「身近な人々，社会及び自然と直接かかわる授業を行っていますか。」，質問(3)「自分自身や自分の生活について考えさせることを大切にする授業を行っていますか。」，質問(4)「気付いたことや楽しかったことなどを表現する活動を大切にする授業を行っていますか。」について，肯定的な回答の割合が高い。これらは生活科の教科目標や学年目標に示されていることであり，生活科で重視してきたことである。生活科の主旨が着実に広がる中で定着してきたことであり，その質的な充実が一層図られるようにすることが重要である。

② スタートカリキュラムへの取組や他教科等との合科的・関連的な指導の充実

- 質問(10)「幼児教育との連携・接続を考慮したスタートカリキュラムを工夫して授業を行っていますか。」，質問(11)「スタートカリキュラム作成にあたって，幼稚園や保育所と連携協力しながらカリキュラムの作成を行っていますか。」は，スタートカリキュラムへの取組に関することであるが，肯定的な回答の割合が低く，課題が見られ，幼児教育との連携は今日的な教育課題でもある。児童の発達を十分理解し，幼児教育関係者との連携を密にとって推進を図ることが重要である。また，スタートカリキュラムの趣旨を十分に理解し，幼児教育から小学校教育へと円滑に移行できるようにカリキュラムを編成することも必要である。
- 他教科等との合科的・関連的な指導は，生活科を中核として進めることで，スタートカリキュラムをはじめ，互いの教科指導の充実につながる。スタートカリキュラムの編成と実施については，低学年担当だけに任せるのではなく，校長のリーダーシップの下，組織的な取組が必要である。

③ 思考力等の育成に向けた指導の充実

- 質問(2)「具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えさせるため，見付ける，比べる，たとえるなどの多様な学習活動を行っていますか。」について，肯定的な回答の割合は95.4%であった。「見付ける，比べる，たとえるなどの多様な学習活動」は，思考力等を育成し，気付きの質を高めるために重視される活動である。引き続き，児童が自らの気付きを振り返ったり，互いの気付きを交流したりするような活動を取り入れた指導の充実を図ることが重要である。

(2) 各内容に対する教師の意識

① 対象と繰り返し関わることのできる指導の充実

- 内容(2)「家庭と生活」、(3)「地域と生活」、(4)「公共物や公共施設の利用」の主に身近な人々や社会を対象とした内容と比べると、内容(5)「季節の変化と生活」、(6)「自然やものを使った遊び」、(7)「動植物の飼育・栽培」の主に身近な自然を対象とした内容の方が「児童が興味・関心をもちやすい」という回答の割合が高い。これは、前者に比べ後者は、対象と繰り返し関わる学習活動が展開しやすいことに要因があると考えられる。児童の興味・関心の把握や地域の教材研究を更に深め、児童が自然だけでなく人々や社会とも繰り返し関わることのできるような指導の充実を図る必要がある。

② 「生活や出来事の交流」の活動と他の内容との関連を図った学習活動の充実

- 内容(8)「生活や出来事の交流」について、「児童が興味・関心をもちやすい」という回答の割合は63.8%、「児童が身に付けやすい」は49.3%と低く、学校現場への浸透や教師の認知が低く、十分な実践が行われていないと考えられる。具体的な活動や体験の様子などを身近な人々と伝え合うことは、児童の思考を促し気付きの質を高める上で重要であることから、単に交流の場を設定するだけでなく、「生活や出来事の交流」の趣旨を十分踏まえた上で、他の内容との関連を図った学習活動を展開することも重要である。

(3) その他

① 地域を生かし教職員が一体となって指導する年間指導計画の作成

- 生活科は、個に応じ、地域の特色を生かした指導の充実が大切である。質問(8)「個別学習やグループ学習などの学習形態を工夫した授業を行っていますか。」について、肯定的な回答の割合は97.3%であった。個別学習やグループ学習などが適切に展開され、個に応じた指導の充実が図られていると推察できる。また、質問(9)「保護者、地域にいる人々などの協力を得た授業を行っていますか。」について、肯定的な回答の割合は94.8%であった。保護者や地域の人々の協力を得て、地域の特色を生かした指導の充実が図られていると推察できる。今後は、学校や地域の特色に応じた学習が展開されるように、その学校ならではの単元開発に努め、教職員が一体となって指導する年間指導計画の作成を推進する必要がある。

② 自分との関わりで学ぶことを大切にした指導の充実

- 生活科は、身近な社会事象や自然事象などを学習の対象とし、それらを自分自身との関わりで学ぶことにその特質がある。内容(3)「地域と生活」と内容(7)「動植物の飼育・栽培」については、「児童が興味・関心をもちやすい」という回答の割合に比べて「児童が身に付けやすい」という回答の割合は低い。児童は地域との関わりや動植物の飼育・栽培に強い興味や関心をもっているが、その機会や経験が日常の生活において十分でないためと考えられる。町探検や動植物の飼育・栽培を通して、児童が自分との関わりで学ぶことができるよう学習指導を工夫することが重要である。